



あし おと

足音がやってくる

いわなみしょうねんぶんこ
岩波 少年文庫

マーヒ―作 あおき ゆきこ いわなみしよてん
青木由紀子訳 岩波書店

バーニーは、ごくふつうの男の子だった。
ところが、大叔父さんが死んだその日から、何の前ぶれもなく、何者かにとりつかれるようになる。ある時は、見覚えのない風景が見え、またある時は、謎の人物のしゃがれた声が、頭のなかから聞こえてくる。君は魔法使いだと告げるその人物の、こつこつと響く足音が近づくたび、バーニーの心は恐怖でいっぱいになった。
そしてついにその姿をあらわしたとき、隠されていた家族の秘密が明らかになる。

